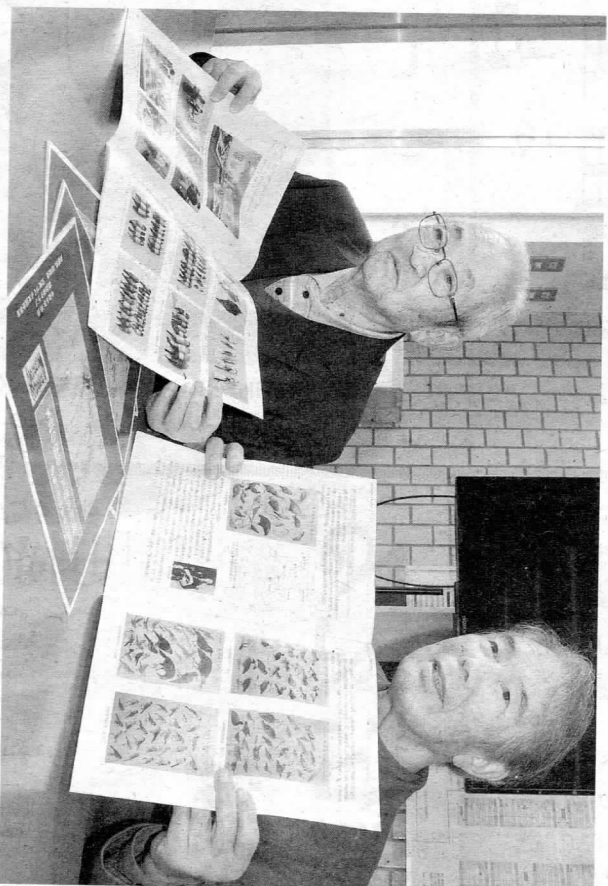


# 「世紀を超えた鳥類の標本」冊子作成

諏訪湖クラブは、冊子「世紀を超えた鳥類の標本」を1500冊作成し、諏訪の市町村の小中学校、高校、大学、博物館、図書館などに寄贈している。25日は同クラブのメンバー4人が原村役場を訪れ、牛山貴広村長に冊子を手渡した。

冊子はA判のカラー20ページ。同クラブのメンバーで、日本野鳥の会諏訪支部名誉支部長を務める林正敏さん(80)「岡谷市」が所蔵し、年内に国立科学博物館(茨城県)へ寄贈する予定の鳥類標本の写真を掲載した。▽鳥のはく製とその活用▽標本を未来に残した信濃の4氏▽鳥卵と標本の作り方」などの章を

## 諏訪湖クラブ



冊子「世紀を超えた鳥類の標本」をPRする諏訪湖クラブのメンバーたちが

設けた。標本の寄贈決定を受けて、今年4〜7月に原村のハク岳美術館で開いた緊急展示「世紀を超えた鳥類標本の全容」を紹介するページもある。同クラブは今後、冊子と同様の内容をホームページで公開したいと考えた。林さんによる

冊子と、標本は博物館で保存され、主に研究目的で活用される。一般の目に触れる機会とはほとんどなくなるとい

い、「貴重な標本があった事実を地域に残したい」と思いか、冊子の作成を決意。県の地域発元気づくり支援金を活用した。

林さんは「標本は失われてしまつと二度と戻らない。100年前の標本を将来へどのように残そうか考えていたが、理想としていた博物館への寄贈が決まつてほつとしている」と頬を緩め、「冊子を通じて標本に興味を持つてくれる人が増えれば何より」と語った。牛山村長は「貴重な資料を寄贈いただきありがとうございます」と感謝した。(平岡大輝)

## 小中高などに寄贈